

令和5年度第1回愛媛県へき地医療支援 計画策定等会議（書面）の開催結果

- 1 開催方法 書面送付により開催
- 2 議 題 第8次愛媛県地域保健医療計画（へき地医療）の策定について
- 3 主な意見

遠隔診療の導入は今後の医療の重要なツールになるが、今後の県内の医療ネットワークの導入について具体的な計画や着手しているものがあれば教えてほしい。

一部の診療科において、県立南宇和病院と県立中央病院の診察室を5G通信で繋ぎ、南宇和病院に来院した患者に対して、中央病院の診察室にいる専門医がオンライン診療を行うモデル事業を9月から開始しました。

今後はモデル事業の検証結果や医療関係者の意見も踏まえながら、他の医師不足地域への展開を検討いたします。

オンライン診療・遠隔医療について、遠隔地にいる医師がリアルタイムでへき地診療所のカルテを操作できる環境が整っていないと診療はできない。紙カルテではオンライン診療ができないが、電子カルテを導入するとセキュリティのリスクが発生する。

オンライン診療の導入における個人情報の保護や医療情報の漏洩を防ぐセキュリティ対策は重要な課題です。

県が実施している遠隔医療に係るモデル事業を他の医師不足地域へ展開する場合においても、セキュリティ対策全般について適切な対応を行ってまいります。

県がイニシアティブを取ったうえで、地域枠医師や自治医科大学卒業医師等若手医師のキャリア形成支援と地域医療機関への適切な配置に取り組んでほしい。

本県の地域医療提供体制の維持・確保を図るためには、地域枠医師や自治医科大学卒業医師等若手医師の活用が不可欠であるため、関係機関との緊密な連携のもと、医師不足に悩む医療機関への適切な配置に努めるとともに、長期的な視点を持ったうえで、医師本人のキャリア形成支援を含む県内定着策にも取り組んでまいります。

へき地医療拠点病院が巡回診療を行うにはスタッフの確保が急務である。

ご指摘のとおり、へき地の医療機関を支えるべき地域の中核的な医療機関においても医師が不足しておりますので、自治医科大学卒業医師や地域枠医師等の養成・確保をはじめ、プラチナドクターバンク事業等を通じて、地域医療を支える人材の確保に努めてまいります。